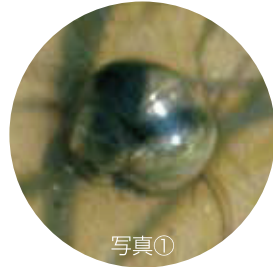




今からできるジャンボタニシ防除対策

日本各地で問題となっているジャンボタニシが当JA管内の水田でも発見されています。ジャンボタニシについての対策情報を紹介します。



写真①

ジャンボタニシとは
正式名称スクミリンゴガイ(写真①)。中南米に生息する淡水産の大型巻貝で在来のタニシ類に比べて大きく、成長すると体長8cmに達するものもあります。水田に侵入し被害を拡大しています。水稲では田植直後〜3週間の幼苗期の柔らかい苗や葉を食害します。

年内の防除

越冬する貝を減らすための耕起

刈り取り後なるべく早い時期にロータリーにより圃場を耕起します。耕起の深さは4〜5cmと浅くし、ロータリーの回転を速くすることで地中に潜っている貝を物理的に破壊して、寒気にさらされると凍死します。

田植後の防除

- 田面を平らにして水深を4cm以下に保つと貝の活動が鈍くなり被害が軽減します。田植後20日前後まではできる限り浅水管理をしましょう。
- 取水口や排水口に網目5mm以下の**金網を設置**して、水路からの侵入を防ぎます。
- 水田や水路の卵塊(写真②)は**見つけたら水中に落とします**。卵塊は水中で呼吸ができないので死亡します。



写真②

それでも発見される場合は…



農薬での防除

農薬登録されているジャンボタニシ防除剤**「スクミリン」**を10aあたり1〜4kgを散布します。

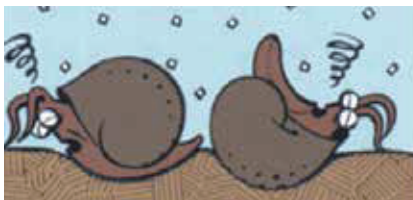
- 使用方法は稲収穫60日前まで。使用回数は2回以内。
- 主に食毒で作用し、ジャンボタニシに急速な麻痺を引き起こし稲の食害を防ぐことができます。柔らかい稲に加害するので、田植直後〜約2週間後(地域によって異なります)までに散布します。



その他の防除

石灰窒素を使用する防除もあります。使用する際は10aあたり4〜6kgの窒素が投与されることになるので、基肥の窒素量は控えてください。

- ① 荒起し後、3〜4cm水を張り、3〜4日間放置してください。それにより土の中にいるジャンボタニシが出せます。



ジャンボタニシは繁殖力が強く、水路を通して侵入するため、発生を確認したら**地域全体**での防除対策に取り組みましょう